



人生100年時代における 心理学の貢献

— 縦断研究から紐解くこころの加齢発達 —

心理学は、「人生100年時代」と呼ばれるようになった「長寿社会」を「幸福長寿社会」にするために貢献できるのでしょうか。本シンポジウムでは、日本で実施されている、中高齢者を対象とした縦断研究の最新の知見からこころの加齢について紹介するとともに、これからの高齢者像についてのディスカッションを行います。

2024

12月15日(日)
13:00-16:00

大阪大学中之島センター
10F 佐治敬三メモリアルホール

会場 / オンラインでの
ハイブリッド開催



定員 150名



定員 500名

企画・司会 権藤 恭之 (大阪大学大学院)

話題提供 西田 裕紀子
(国立長寿医療研究センター)

中年期から高齢期にかけての認知機能の加齢変化
～学際的縦断研究より～

中川 威
(大阪大学大学院)

高齢者は幸福になったのか
～異なった時代のデータ比較から見えるもの～

増井 幸恵
(東京都健康長寿医療センター研究所)

高齢期における心理的発達
～老年的超越の視点から～

指定討論 岩原 昭彦 (京都女子大学)

特別企画 「中学生によるジェロントロジー研究会」の紹介

- ・どなたでもご参加いただけます。
 - ・会場は定員150名、オンラインは定員500名。
 - ・右のQRコードからお申込みいただけます。(日本心理学会HP: <https://psych.or.jp/event/>)
- ※申し込み期限 2024年12月11日(水)



お申し込みは
こちら



イラスト
朝野ベクト

同日開催

日本認知心理学会
高齢者心理部会 研究会

2024

12月15日(日)

10:00-12:00

大阪大学中之島センター

10F 佐治敬三メモリアルホール ホール 1

特別講演

白井こころ（大阪大学医学系研究科）

「変更可能な認知症の関連要因：Lancet 認知症委員会からの疫学研究エビデンス報告」

研究発表

発表者募集中

「□頭発表 20分程度」

問合せ先

石松一真（滋慶医療科学大学大学院）

k-ishimatsu@juhs.ac.jp